

聖徳学園シリーズコンサート NO.1540

第28回 聖徳学園

第九の夕べ

Ludwig van Beethoven

ベートーヴェン

アテネの廃墟

作品113 序曲

交響曲 第9番 二短調

作品125「合唱付」

指揮：山本 真

管弦楽：東京交響楽団

ソプラノ：島崎 智子

アルト：中屋 早紀子

テノール：志田 雄啓

バリトン：宮本 益光

合唱：聖徳学園“第九”合唱団(合唱指導：鈴木 純子)

日本声楽家協会

2011年 **12/14** 水 PM6:15開演

聖徳大学川並香順記念講堂

■主催：聖徳大学 ■入場整理券：¥1,000

■問い合わせ：聖徳大学教務課音楽グループ Tel.047-365-1111(大代)

聖徳学園シリーズコンサート (会場：聖徳大学川並香順記念講堂)

山本 真 (指揮者)

1948年広島生まれ。14歳よりホルンを始める。
1966年東京藝術大学入学。ホルンを谷中甚作氏に師事。
1969年在学中に日本フィルハーモニー交響楽団に入団。同年、東京藝術大学において安宅賞受賞。
1970年東京藝術大学卒業。
1973年日本フィルハーモニー交響楽団退団。同年、東京藝術大学管弦楽学部講師。
1974年NHK交響楽団入団。
1981年父・故山本正人指揮 東京吹奏楽団第35回定期演奏会を父が急病のため、代わりに指揮を務める。これをきっかけに吹奏楽の指揮者としての活動をはじめる。
1984年カラヤン指揮、ベルリンフィルハーモニー交響楽団東京公演参加。
1997年デュトワ指揮モントリオール交響楽団日本公演全5回参加。FMリサイタル、テレビリサイタルに出演する等、ホルン奏者として活躍する傍ら、父の後を継いで、父が初めて日本に作った吹奏楽バンド「聖徳レディーズウインドオーケストラ」の指揮をする。
2004年3月不動の2ndホルンとして30年在籍したNHK交響楽団を退団。現在、聖徳大学音楽学部演奏学科教授。武蔵野音楽大学講師として後進の指導にあたっている。他、近年では、多摩ウインドオーケストラ、日本各地の吹奏楽バンドを指導、指揮するなど、指揮者としての活動にも大いに力を尽くしている。2005年、2006年、2007年、2008年、2009年、2010年聖徳大学シリーズコンサート「第九の夕べ」指揮。
国際ホルン協会会員。日本ホルン協会会員。



中屋 早紀子 (アルト)

東京藝術大学音楽科卒業。同大学院ソロ科修了後留学し、ドイツを中心にイタリア、スイスで学ぶ傍ら、各地でコンサートに出演。帰国後も度々渡欧し、演奏すると共に研鑽を積み続け現在に至る。バロックから現代曲までの幅広いレパートリーを持ち、定期的にリサイタルを開催するほか、数多くのコンサート、オペラ、オラトリオ、宗教曲ソロ、第九ソロ、NHK-FM、TVに出演する等、積極的に演奏活動を展開している。
浅野千鶴子、戸田敏子、木村和子、ルイジ・ダルフィオール、セーナ・ユリナツ、エディス・ハルトマン諸氏等に師事。
現在、二期会会員、聖徳大学音楽学部演奏学科講師。



志田 雄啓 (テノール)

東京藝術大学卒業。同大学院オペラ科修士、博士課程を修了し博士号(音楽)取得。第74回日本音楽コンクール声楽部門第1位。松下賞。テノールの受賞は26年ぶりの快挙。平成20年五島記念文化賞オペラ新人賞受賞、ニューヨークで研鑽を積む。留学中アカデミアオペラコンクールに入選。カーネギーホールデビュー。N響、東フィル、読響、名古屋フィル、小澤征爾音楽塾オーケストラ他と共演。井上道義、大野和士、小林研一郎を始めとする多くの指揮者と主要オーケストラで共演。「黒船」で新国立劇場デビュー。東京藝術大学、聖徳大学音楽学部演奏学科講師。
テノール歌手志田雄啓のホームページ
http://music.geocities.jp/shidatake_tenor/



島崎 智子 (ソプラノ)

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了。二期会オペラスタジオ研究生修了時に川崎静子賞(最優秀賞)を受賞。文化庁オペラ研修所第6期生修了。文化庁派遣の芸術家在外研修員として、ミラノに留学。ヴェルディ国際コンクール入選。「蝶々夫人」のタイトルロールでは、これまでに二期会、日生劇場、オーチャードホール・オペラ、フィンランドのサヴォンリンナ・オペラフェスティヴァル等に出演。またモーツァルトのオペラにおけるリリコの役を数多く演じ、安定した歌唱力と演技で内外の指揮者や演出家より信頼をおかれている。
聖徳大学音楽学部演奏学科教授、東京藝術大学非常勤講師、日本声楽アカデミー会員、二期会会員。



宮本 益光 (バリトン)

東京藝術大学博士課程修了。学術博士。二期会会員。1994年「メサイア」のソリストとしてデビュー。オペラでは「欲望という名の電車」(日本初演)の好演で一躍脚光を浴び、二期会デビューとなった宮本亜門演出「ドン・ジョヴァンニ」では新時代のドン・ジョヴァンニ像を演じ絶賛された。「カルミナ・ブラーナ」第九「口短調ミサ」「レクイエム」などのソリストとして活躍。オペラの日本語訳詞創作をライフワークとし、特に日生劇場「利口な女狐の物語」、大阪いずみホール「カルメル会修道女の対話」では高い評価を得た。その他にも音楽雑誌への寄稿、新聞紙上での書評など文筆活動もこなす多才ぶりを発揮。聖徳大学音楽学部演奏学科講師。



聖徳大学川並香順記念講堂



聖徳大学川並香順記念講堂は、創立者の川並香順・孝子両先生を記念して昭和55年11月に建設されたものです。
最高度の音響・照明機能・舞台機構を備えた約1,400名収容のホールで、クラシック音楽を中心とした多目的かつ技術的に高度な利用ができるよう設計されています。さらにオランダ・フレントロップ社製のパイプオルガン(56ストップ)が舞台中央の奥にあり、演奏目的に応じて前後に移動できる、世界でも大変珍しい機構をもっています。また特筆すべきことは、美術家であり聖徳大学短期大学教授であった故利根山光人先生と、彫刻家の多田美波先生が講堂各所の壁画、緞帳、照明器具・シャンデリア等のデザイン・制作をしたことです。なお2面の緞帳は、昭和56年度の吉田五十八賞(建設関連部門)を受賞した作品です。



会場案内

～松戸駅東口より徒歩5分～

交通案内

一松戸駅には一

- ・JR常磐線「上野駅」から約20分
- ・千代田線「西日暮里駅」から19分
- ・京成バス「市川駅」から約35分
- ・新京成線「津田沼駅」から50分

